

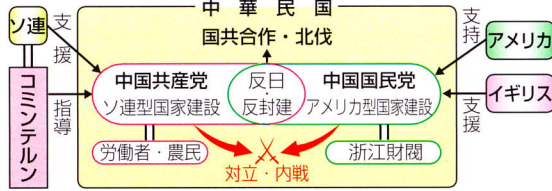
1 中国革命の進展 (P193年) (P222年)

ロシア革命 1921.7 中国共産党 陳独秀・李大釗 1922 香港海員スト 1923 京漢鉄道スト	1917 文学革命 白話運動 1919.5 五・四運動 1919.6 ヴェルサイユ条約調印拒否 1924.1 第1次国共合作 1925.5 五・三〇事件 1926.7 第1次北伐 軍閥打倒、華中・華南統一 1926.12 武漢政府 (国民党左派と共産党)	1919.7 カラハン宣言 1919.10 中国国民党 孫文 1923.1 孫文・ヨッフ工共同声明 (連ソ・容共・扶助工農) 1924.1 中国国民党一大 1925.3 孫文死亡 1925.7 広州国民政府 1926.7 蒋介石 国民革命軍司令官 浙江財閥 1927.4 南京国民政府 (蒋介石) 上海クーデタ 1927.8 南昌暴動・紅軍設立 1927.11 中華ソヴィエト共和国 (海豊・陸豊・井崗山) 1931.11 中華ソヴィエト共和国臨時政府 (江西省瑞金) 1932.4 日本に宣戦 1934.10 瑞金陥落 長征(大西遷)出発 1935.1 遵義會議 1935.8 八・一宣言 (P243(37)史) 1935.12 十二・九運動 1936.10.6 陝西省延安に合流 1937 中ソ不可侵条約 1937.9 紅軍、国民党軍の「八路軍」に編入 ○八路軍・新四軍(司令官 朱徳) 解放区拡大 1945~49 国共内戦 1949.10 中華人民共和国成立	1919.7 五・四運動 1919.10 中国国民党 1923.1 孫文・ヨッフ工共同声明 (連ソ・容共・扶助工農) 1924.1 中国国民党一大 1925.3 孫文死亡 1925.7 広州国民政府 1926.7 蒋介石 国民革命軍司令官 浙江財閥 1927.4 南京国民政府 (蒋介石) 上海クーデタ 1927.8 南昌暴動・紅軍設立 1927.11 中華ソヴィエト共和国 (海豊・陸豊・井崗山) 1931.11 中華ソヴィエト共和国臨時政府 (江西省瑞金) 1932.4 日本に宣戦 1934.10 瑞金陥落 長征(大西遷)出発 1935.1 遵義會議 1935.8 八・一宣言 (P243(37)史) 1935.12 十二・九運動 1936.10.6 陝西省延安に合流 1937 中ソ不可侵条約 1937.9 紅軍、国民党軍の「八路軍」に編入 ○八路軍・新四軍(司令官 朱徳) 解放区拡大 1945~49 国共内戦 1949.10 中華人民共和国成立
--	--	--	---



⑤五・四運動 パリ講和会議で中国が主張した21か条要求の破棄や山東の旧ドイツ権益の回収が列国により無視されたため、1919年5月4日北京大学の学生が排日などを叫びデモ行進。これを機に大衆が参加し全国的な反帝国・反封建主義運動が展開された。北京革命博物館蔵

2 共産党と国民党の対立



3 五・四運動と第1次国共合作 (1919~1928)



●張作霖爆殺の舞台裏

九か国条約(1922)以来、列国の支持を失った日本は「満蒙」権益を守るため、奉天(東北)軍閥の張作霖を利用、彼の北京支配を支援した。しかし、1928年第2次北伐により張作霖が蒋介石率いる北伐軍に敗れると、関東軍の一部は、北京から自らの根拠地である満州にもどろうとする張作霖を爆殺した。混乱に陥った満州に関東軍が出動、満州全土を制圧して、張作霖の独立をねらった。

るせ發突に外驛天奉朝昨
景光の難遭氏霖作張
送輸中空の號風初社一影披員派特内宮
車列特の行一兵隊作張あ、つえ懸にん盛し都を災火に共と破燃大(出)
車貨倉をれ棄の兵隊作張あつたと要るな機離てれは機しけを機組、下
(P243(37)史)

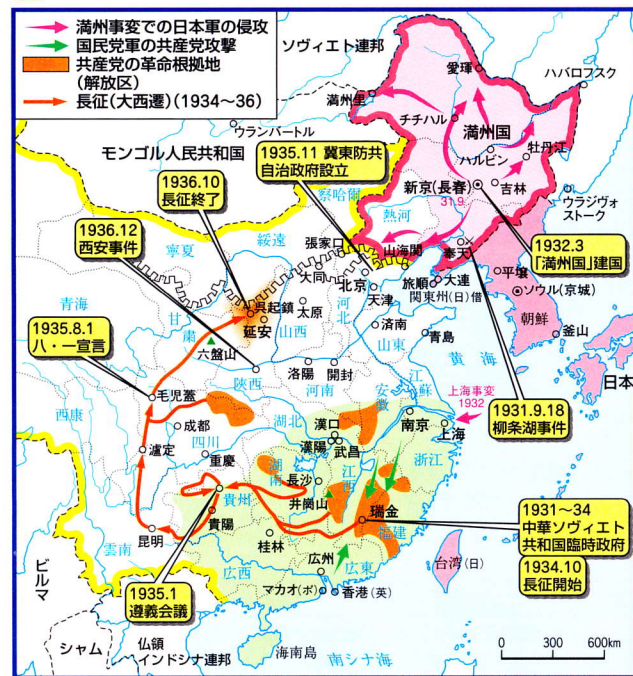
●魯迅と文学革命 (P232(1)表)

本名「周樹人」。医師になることをめざし日本に留学したが日露戦争後、文学にめざめ、北京大学で文学史を教える一方白話運動に参加。1918年『狂人日記』を雑誌「新青年」に寄稿するなど文学革命の中心人物として活躍。『阿Q正伝』など当時の中国社会を批判する作品を残し、中国革命における精神的基盤を形成した。

●文学革命のプロセス

1915 陳独秀、「新青年」発刊
1917 胡適、「文学改良芻議」で白話運動を提唱
1918 魯迅、「狂人日記」発表
1918 李大釗、マルクス主義研究会を設立

4 抗日民族統一戦線の形成(1929~36)



5 日中戦争の時代(1937~45)



「長征」(大西遷)12,500km

蔣介石率いる国民党軍の5回に及び包圍攻撃で江西省の拠点瑞金を放棄した共産党は、1934年陝西省延安を目指す長征を敢行した。移動距離は12500kmに及び、数多い難所越えと国民党の追撃の中で、出発時の人員12万が到着時には3万以下に激減する長苦の旅であった。この長征途上の遵義会議(1935)で周恩来の支持を得た毛沢東は、党指導権を掌握した。

長征直後の共産党指導者(1937年 延安)

長征(大西遷)

大雪山(海拔4000m)を越える

禁監を氏石介蔣 變兵の軍良學張

張学良氏が指揮して西安事件を報じる日本の新聞(1936年12月13日付朝刊) 長征後も延安の共産党拠点への攻撃を続ける国民党軍を激励するため西安を訪れた蔣介石に対し、司令官の張学良は内戦の停止などを要求した。これが拒否されると突如蔣介石を監禁、共産党の周恩来らとともに説得を続けた結果、蔣介石は承諾。これを契機に第2次国共合作による抗日民族統一戦線が形成されていた。張学良は1928年閩東軍に爆殺された張作霖の長男である。

史料「義勇軍行進曲」(中華人民共和国国歌)

起て 奴隷たることに甘んじない人々よ
 われらが血潮もて 新しき長城を築け
 中華民族は いまや危機存亡の關頭に立たされた
 おのがじし 最後の雄叫びをあげよ
 起て 起て 起て 諸人うって一丸となり
 敵の砲を冒して前進せよ (『世界大百科辞典』平凡社)

解説

抗日運動を題材とする映画「風雲児女」(1934)の主題歌としてつくられたが、1935年「十二・九運動」に参加した民衆がこの歌を口ずさんで以来、代表的革命歌となり、中華人民共和国の成立とともに、国歌として制定された。

「満州国」と「ラストエンペラー」

清朝最後の皇帝溥儀は、1908年、西太後の指名により3歳で即位したが、辛亥革命のため退位(1912)。その後中国侵略をまかす日本の軍部に利用され、1932年日本の傀儡国家「満州国」の執政に就任した。

溥儀(宣統帝) (「満州国」の普通切手)
 溥儀の執政就任式後の記念撮影(1932年3月9日)

満州の産業開発

産出量 (『日本の歴史』小学館)

資源	1931年	1932年	1938年
石炭	905	92	270
鉄鉱石	444	34	85
鉄鉄	418	372	107
大豆	415	85	
高粱			
小麦			

解説 「満蒙は日本の生命線」という言葉どおり、日本資本が進出した満州は、多くの資源を日本に供給した。

サカエイク マンシウコク

「満州国」の子供雑誌 日本の傀儡国家「満州国」は建国理念に「五族(日・満・漢・朝・蒙)協和」と「王道楽土」を掲げた。